

イネカメムシの大発生が懸念されます

河宇
地域

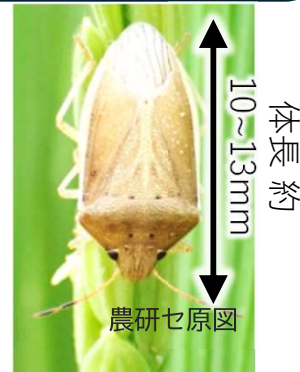
～ 今年には本当に危険！ ～

警戒
せよ

- 昨年被害がなかった地域でも油断せず、出穂期前からほ場への飛び込みを確認し、防除を行いましょう。
- イネカメムシ等の大型カメムシ類の防除には、虫に薬液を直接付着させやすい液剤の散布が最も効果的です。

●イネカメムシとは？

- 出穂期の加害は不稔を生じさせ、収量を低下させます。
- 乳熟期の加害は基部斑点米を生じさせ、品質を低下させます。
- 上三川町南部で多数の越冬成虫を確認しました。
(2026年2月 越冬量調査 → 上三川：6頭/㎡、坂上：11頭/㎡)
- ☆防除を怠ると甚大な被害が想定されますので、県の発生予察情報(裏面QRコードから入手)等を注視して防除に活かしましょう。



●2026年産イネカメムシ防除方針

イネカメムシの成虫

7月上中旬	出穂期	穂揃期	乳熟初期	乳熟後期以降	収穫後
①発生初期の把握	②薬剤防除の実施 (注1)				③耕うん
	薬剤散布 1回目 不稔防止	7～10日	薬剤散布 2回目 斑点米防止	7～10日 追加防除 (注2) 3回目 斑点米防止	秋耕 生息場所 除去

(注1) 地域の共同防除と出穂のタイミングが合わない場合、別途ドローンによる防除や出穂7～10日前の粒剤処理(キラップ粒剤等)等の代替策を行う。

(注2) 薬剤散布2回目の後もカメムシ類の発生が確認される場合のみ実施する。

〔除草〕斑点米カメムシ類の餌の除去をするため、出穂2～3週間前と出穂期に畦畔除草を実施する。



イネカメムシの幼虫

●水稻のカメムシ類に登録のある主な薬剤

(令和8(2026)年5月31日現在)

No.	農薬名	希釈倍数・使用量	散布液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	IRACコード
1	スミチオン乳剤	1000倍	60～150L/10a	収穫21日前まで	2回以内	散布	1B
2	キラップフロアブル	1000～2000倍	60～200L/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2B
		8～16倍	0.8L/10a			空中散布	
3	キラップ粒剤	3kg/10a				湛水散布	
4	トレボンEW	1000倍	60～150L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3A
5	スタークル液剤10	1000倍	60～150L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4A

- 農薬の使用前には必ずラベルを確認しましょう。
- 抵抗性発達を防ぐため、IRACコード(殺虫剤分類)が同じ農薬の連続使用は避けましょう。